

今年築100年を迎える家があります。大正11年に完成した福山町にある旧田中家別邸です。大正時代の住宅建築の特徴をよく残し、県の有形文化財に指定されています。

## 建物の魅力

建坪130坪、瓦ぶきの木造平屋建ての外観は和風建築そのものです。玄関から右に行けば表座敷(客間)、左に行けば奥座敷(居住空間)となります。

別邸を訪れた客をもてなす客間の表座敷は、16畳半で床と書院を設け、12畳の次ノ間まで含めると広々とした座敷となります。座敷からは市指定名勝にもなっている庭園が望め、借景として雄大な桜島が取り入れられています。いかにも純和風な建物ですが、玄関を入って右の部屋に進むと和室から一転し、洋間が現れます。中央にシャンデリアがあり、大理石を使用したマンダリンピース(暖炉上の飾り棚)、天井には花文様などのしつこい飾りと豪華な造り。大正期は洋間が和風建築に取り入れられていく時代であり、旧田中家

別邸の外観が和風、内観が洋風という造りは、住宅建築の過渡期の様子が分かる貴重なものです。

玄関から左に入った居住空間にも10畳と8畳の座敷・次ノ間があり、ここから庭を眺めることができます。建物各所が数寄屋としてさまざまな意匠が施され、部屋ごとに変わる飾りは見るものを飽きさせません。

## 家の主・田中省三

この建物の建築主は、福山出身で明

# 百年名家 旧田中家別邸

中学校(現在の福山高校)などの設立にも多額の寄付を行い、地元の教育にも貢献しています。

大阪で活躍した省三は、故郷に別邸を建築。屋根裏には大正8(1919)年9月に上棟式を行なった際の棟札が残り、大阪から大工の棟梁を連れてきていたこと、石工は鹿兒島の人だったことなどが書かれており、建築当初の状況が分かる貴重な資料となっています。大正11年に家が完成し、翌12年に庭が完成したといわれていますが、省

三自身は14年に死去し、67歳の生涯を閉じます。

## 福山のぜいたく空間

その後、別邸は福山町が購入し、公民館や高齢者施設「老人憩いの家」として地域に親しまれてきました。現在は無料で誰でも観覧ができます。春は庭園に絶滅危惧種の翁草おきなぐさが咲き、夏は緑が青々し、秋は紅葉、冬は寂しげな趣ある景色を堪能することができます。

100年たった今でも地域に愛され

ながら、在り続けている旧田中家別邸。近くにある宮浦宮のイチョウも色づく秋、百年名家でぜいたくな時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

(文責 小水流)

# 郷土の扉

The gateway to local history

## 旧田中家別邸にお越しくささい

- 住所=福山町福山2926
- 開館時間=午前8時30分~午後5時
- 休館日=水曜、年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料=無料

※七五三などの記念写真会場としても利用できます(有料)。事前に問い合わせください。

問 福山総合支所地域振興課 ☎(56)2012



純和風な外観と庭園



豪華な造りの洋間



庭園に面した座敷